

# 令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

## 取手市

### ●地域における現状・課題

少子化や、民間クラブチームへの参加により、団体競技は学校単位ではチームが組めない状況に陥っている。やりたいスポーツが出来ない状況である。

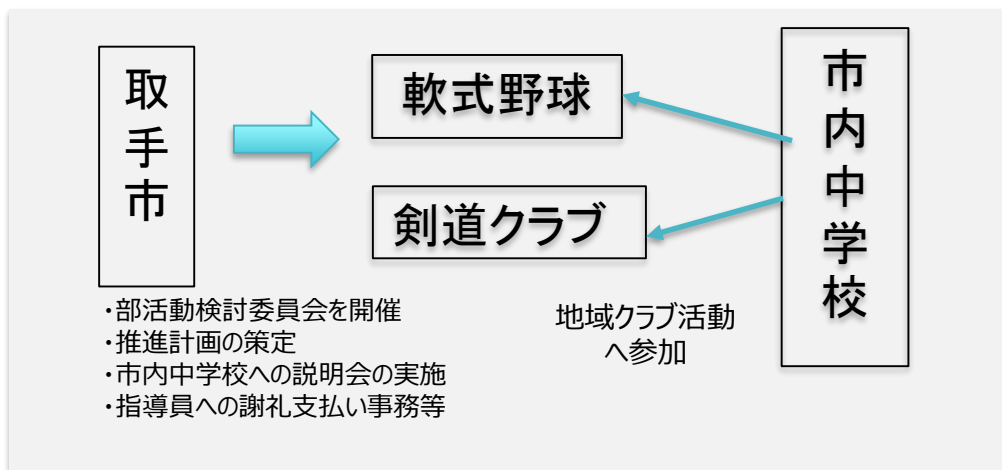
### ●取組事項の概要

・中学校部活動の地域移行について、国及び茨城県よりガイドラインが示されたが、取手市においても、部活動移行が子どもたちを主役とした当市にあった事業となるようにと、今ある部活動の良さを生かしながら進めて行く。令和5年度の主な取組は、大きく2つ、取手市部活動地域移行推進協議会の設置・開催と、地域クラブ活動のモデル事業を行った。取手市部活動地域移行推進協議会は、部活動の中心的な存在として取手市スポーツ協会、取手市スポーツ少年団、総合型地域クラブ、取手市中体連、市P連、学識経験者、文化芸術関係団体の代表者に委員を委嘱し、教育委員会も加わって年3回開催した。また、モデル事業として藤代中学校と藤代南中学校の軟式野球部と剣道部を採り上げ令和5年7月1日から休日土曜か日曜に週1回の活動を行った。

### ●取組の成果、特に工夫した点等

令和5年度の推進協議会やモデル事業は、参加者、生徒や指導者や保護者の協力もあり、順調に進めることができた。今後7年度末の事業完了をに向けて、6年度は各中学校で2つ以上の部活動を、7年度は半数以上の部活動を地域に移行していく予定である。モデル事業を通して地域クラブの運営組織の設立やクラブの規約の作成、運営要綱の作成等、課題を荒い出し一つ一つ改善していきたい。

### ●運営体制図



### ●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）

- (1) 運営類型：市町村運営型
- (2) 運営主体：取手市教育委員会 スポーツ振興課
- (3) 種目：軟式野球・剣道
- (4) 指導者の主な属性：兼職兼業教員
- (5) 1か月あたりの平均的な活動回数：月4回
- (6) 主な活動場所：市内中学校体育施設
- (7) 主な移動手段：徒歩、自転車、保護者送迎
- (6) 1人あたりの参加会費等（年額）：実証事業期間のため無
- (7) 1人あたりの保険料：生徒800円／指導者1,850円

# 【取手市】 令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 （運動部活動の地域移行に向けた実証事業）

本報告書は、スポーツ庁の「令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業（運動部活動の地域移行等に向けた実証事業）」の一環として、茨城県が実施した「令和5年度運動部活動の地域移行に向けた実証事業」の成果を取りまとめたものです。

# 1. 自治体の基本情報

## 基本情報

人口	106,067人	部活動数	66部活
公立中学校数	6校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
公立中学校生徒数	2,194人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済み

## 取手市部活動地域移行事業における概要

### 【地域移行に向けて】

#### ○事業概要

中学校部活動の地域移行について、国及び茨城県よりガイドラインが示されたが、取手市においても、部活動地域移行が子どもたちを主役とした当市にあった事業となるようにと、今ある部活動の良さを生かしながら進めていくことになった。

令和5年度の主な取組は、大きく2つ、取手市部活動地域移行推進協議会の設置・開催と、地域クラブ活動のモデル事業を行った。取手市部活動地域移行推進協議会は、部活動地域移行の中心的な存在として、取手市スポーツ協会、取手市スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ、取手市中体連、市P連、学識経験者、文化芸術関係団体の代表者に委員を委嘱し、教育委員会も加わって6月、10月、2月の3回開催した。

また、モデル事業として藤代中学校と藤代南中学校の軟式野球部と剣道部を採り上げ、令和5年7月1日から2月29日までの休日（土曜日、日曜日）に週1回の活動を行っている。藤代中と藤代南中の軟式野球部と剣道部は、今までも合同チームとして活動したり、合同で練習を行ってきた。生徒も保護者も既に関わりのあることから、スムーズにモデル事業を行うことができています。

#### ○課題

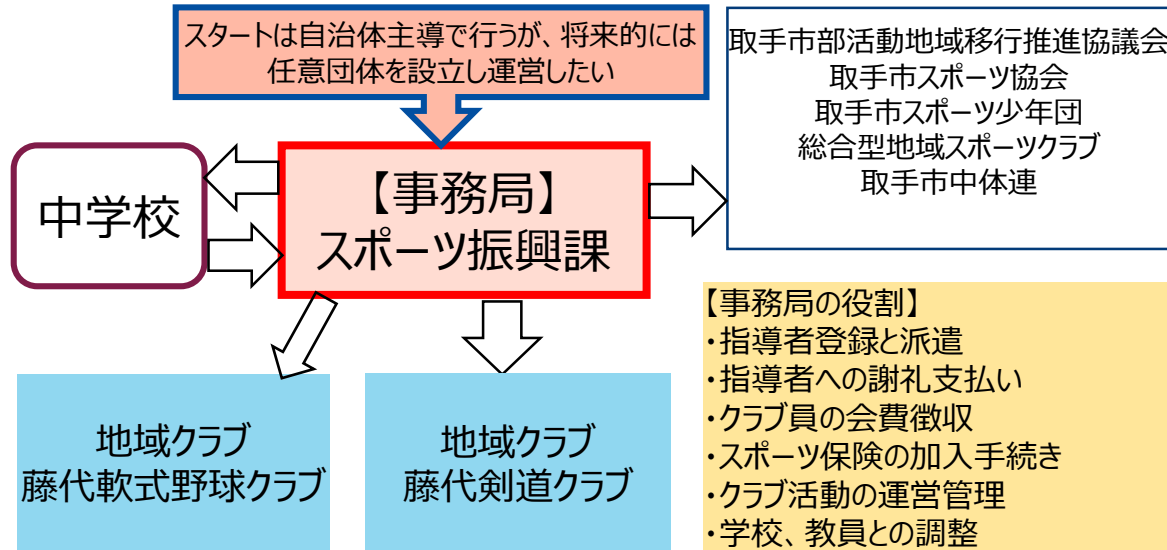
令和5年度の推進協議会やモデル事業は、参加者、生徒や指導者や保護者の協力もあり、順調に進めることができた。今後、令和7年度末の事業完了に向けて、6年度は各中学校で2つ以上の部活動を、7年度は半数以上の部活動を地域に移行していく予定である。モデル事業を通して地域クラブの運営組織の設立やクラブの規約の作成、運営要綱の作成等、課題を洗い出し、一つ一つ改善していきたい。



## 2. 実証内容と成果

### 運営体制・役割

#### ▼運営体制図（市区町村における推進体制図）



#### ▼行政組織内での役割分担

● **教育委員会**（スポーツ振興課）  
令和5年度は、取手市教育委員会スポーツ振興課が主体となり運営を行った。

● **首長部局**  
市長が取手市スポーツ協会の会長を務めている。

### 年間の事業スケジュール

#### 【令和5年度事業実施スケジュール】

- 4月 方針説明（学校・指導者）や事業調整（随時）
- 5月 事業説明（保護者）
- 6月 第1回取手市部活動地域移行推進協議会開催、モデル事業申込み開始
- 7月 モデル実証事業開始（藤代軟式野球クラブ・藤代剣道クラブ）
- 9月 アンケート実施（モデル部活・生徒・教員・保護者対象）、次年度に向けてのヒアリング、意見交換（全校）
- 10月 第2回取手市部活動地域移行推進協議会開催
- 12月 次年度実証事業を行う部活を決定
- 2月 新入生説明会で、小学6年生と保護者に対して、事業説明。同時に在学生に対しても案内文書を配布。  
第3回取手市部活動地域移行推進協議会開催

## 2. 実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の運営実績

拠点校数	3校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	5部活	軟式野球、剣道	

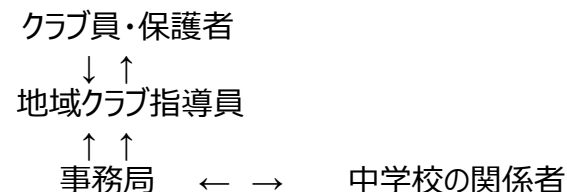
### 主な取組例 ※注1

#### ▼活動概要

拠点校名	藤代中学校・藤代南中学校・取手第一中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	5部活
地域クラブ活動で実施した種目	軟式野球、剣道
運営主体名	取手市教育委員会スポーツ振興課
運営類型 ※注2	任意団体運営型
1か月あたりの平均的な活動回数	軟式野球：月4回程度 剣道：月4回程度
指導者の主な属性	兼職兼業教員
活動場所	藤代中学校・藤代南中学校
主な移動手段	徒歩・自転車
1人あたりの参加会費等（年額） ※注3	軟式野球：0円 剣道：0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

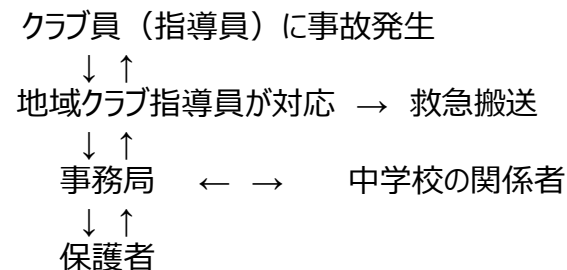
#### ▼運営体制図（令和5年度用地域クラブ活動を実施する際の連絡体制）

##### ○通常時の連絡体制



- ・活動について、クラブ員や保護者から相談等があった場合には、地域クラブ指導員は事務局及び中学校と連絡をとり、ていねいに対応すること。
- ・相談の内容によっては、事務局が当事者の間に入って、円満に解決に導くようにすること。

##### ◎緊急時の連絡体制



- ・事故発生時には、クラブ員（クラブ指導員）の安全を第一に考え、地域クラブ指導員は迷わず救急車を要請すること。特に首から上の怪我については必ず病院に搬送すること。
- ・救急車を要請したり、病院に搬送した場合は、事務局はスポーツ振興課にも連絡すること。

## 2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保証・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実  
 カ：参加費用負担の支援等  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



### 取組内容

#### ▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

<h4>取組事項</h4>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○取手市部活動地域移行推進協議会の設置と開催（年3回 6月、10月、2月に開催）。</li> <li>○モデル事業の実施（令和5年7月からモデル事業として、藤代中と藤代南中の野球部と剣道部で実施）。</li> <li>○部活動地域移行に関する調査・アンケートの実施（モデル事業参加者、中学生、保護者に対しアンケート調査を9月に実施）。</li> <li>○競技別に市内6校による合同練習会の開催を推進。</li> <li>○スポーツ振興課から、各中学校を訪問してのヒアリングの実施（校長、教頭、部活動主任等）。</li> </ul>	
<h4>取組の成果</h4>	<p>地域クラブ活動に参加している生徒へのアンケートの結果から</p> <p>○質問「地域クラブ活動に参加してよかったですか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①よかった 50%</li> <li>②どちらかといえばよかった 17% <b>①と②の生徒が67%</b></li> <li>③どちらかといえばよくなかった 17%</li> <li>④よくなかった 16%</li> <li>⑤わからない 0%</li> </ul> <p>○「よかった」「どちらかといえばよかった」理由はなんですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な指導が受けられるから。</li> <li>・友達関係が、学校外にも広がるから。</li> <li>・先輩がやさしくて、楽しいのでよかったです。</li> </ul>	<p>地域クラブ活動に参加させている保護者へのアンケート調査の結果から</p> <p>○質問「地域クラブ活動に参加させてよかったですか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①よかった 50%</li> <li>②どちらかといえばよかった 50% <b>①、②の保護者が100%</b></li> <li>③どちらかといえばよくなかった 0%</li> <li>④よくなかった 0%</li> <li>⑤わからない 0%</li> </ul> <p>○「よかった」「どちらかといえばよかった」理由はなんですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子供が専門的な指導を受けられるから。</li> <li>・子供が希望する活動を続けられるから。</li> <li>・子供の友達関係が、学校外にも広がるから。 <b>※全員が回答。</b></li> </ul>
<h4>特に工夫した事項</h4>	<p>○今年度は、地域クラブ活動のモデル事業として、藤代中学校と藤代南中学校の軟式野球部と剣道部を対象に、「藤代軟式野球クラブ」「藤代剣道クラブ」として、7月から休日の活動を実施した。この両校は隣同士の学校であり、普段から交流があったことからスムーズに活動に入ることができた。</p> <p>○指導者も、兼職兼業で、競技経験のある両中学校の部活動顧問が指導にあたったことから、生徒も安心して活動することができ、保護者からも信頼を得ることができた。</p> <p>○今年度は移行期間であることから、参加する生徒から参加費やスポーツ安全保険料はとらなかった。指導員への報酬は、補助金や市の予算から支出した。</p>	
<h4>今後の課題と対応方針</h4>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度は、各校2つ以上の部活動の地域クラブ活動への移行を、令和7年度は、全部活動の半数程度を地域クラブ活動に移行することを、令和8年4月からは、市立6中学校の全部の部活動を地域クラブ活動に移行することを目標にしている。</li> <li>・第三者的な運営組織の設立や、実際の地域クラブの運営等について、モデル事業を通して課題を精査し、アンケート調査や部活動地域移行推進協議会を通して改善していく。</li> </ul>	

## 2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

**イ：指導者の質の保証・量の確保**

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

### 取組内容

#### ▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

##### 取組事項

- ・令和5年度は、地域クラブ活動のモデル事業として、藤代中学校と藤代南中学校の軟式野球部と剣道部を対象に、「藤代軟式野球クラブ」「藤代剣道クラブ」として、7月から休日の活動を実施した。
- ・指導者は、兼職兼業で、競技経験のある両中学校の部活動顧問が指導にあっている。
- ・移行期間のため、参加する生徒からは参加費やスポーツ安全保険料はとらない。指導者の報酬は、県や市の補助金から支出した。

##### 取組の成果

- ・指導者は、兼職兼業で、競技経験のある両中学校の部活動顧問が指導にあたった。日頃から人間関係ができており、生徒も安心して活動することができ、保護者からも信頼を得ることができた。

##### ○生徒アンケートの自由記述から

- ・いいコーチがつくことはいいと思います。 ・専門的な指導が受けられるから、良かったです。

##### ○保護者アンケートの自由記述から

- ・現在の活動に不満はありません。信頼関係を保った活動を継続してほしいです。
- ・はじめは不安でしたが、先生たちにもお世話になり、うまくいっているようで安心しました。

##### 特に工夫した事項

- ・モデル事業を行うにあたり、生徒同士、生徒と指導者、指導員間の人間関係を重視した。
- ・藤代中学校と藤代南中学校の軟式野球部と剣道部は、これまでも日頃から合同で活動をしていた。特に軟式野球部は数年前から合同チームとして大会等に参加していたことから、スムーズにモデル事業を進めることができています。



##### 今後の課題と対応方針

- ・取手市としては、今ある中学校の部活動のよいところを生かして地域移行を進めようと考えている。生徒や保護者の安心感という点では、現在の部活動顧問に、兼職兼業で地域クラブ活動の指導員になってもらうのがいい流れではあるが、教職員の働き方改革も考えながら進めなければならないと考える。
- ・中学生を指導するにあたっては、指導者にも競技経験や指導力が求められる。また、地域クラブ活動の指導員を希望しない教職員も42%いるので、地域のスポーツ団体と連携協力しながら、地域クラブ活動の指導員を確保していきたい。

## 2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保証・量の確保  
ウ：**関係団体・分野との連携強化**  
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実  
カ：参加費用負担の支援等  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ▼取組項目名：ウ：関係団体・分野との連携強化

##### 取組事項

- ・取手市部活動地域移行推進協議会を設置、開催した（6月、10月、2月）。
- ・委員として、取手市スポーツ協会、取手市スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ、取手市中体連、市P連、学識経験者、文化芸術関係団体の代表者に委員を委嘱し、幅広く意見を聞くようにした。
- ・会議には教育長はじめ、教育委員会の関係者やモデル事業の地域クラブの指導者も参加し、直接各委員との意見交換等を行った。

##### 取組の成果

- ・各回とも約2時間にわたって活発な意見交換がなされ、有意義な会議になった。
- ・具体的には、取手市の部活動地域移行事業の概要についてや取手市の中学校の部活動の現状について、今後の取手市の部活動地域移行の事業計画や進め方について等、事務局から説明し、一つ一つについて委員の方々から指導助言をいただくことができ、事業を進める上で非常に参考になった。



##### 特に工夫した事項

- ・部活動地域移行の先駆者である、元つくば市立谷田部東中学校長の八重樫通先生に委員長になっていただいた。八重樫先生から、経験をもとにした貴重なアドバイスをいただくことができています。
- ・第2回と第3回は、茨城県教育庁の教育企画室と保健体育課からも参加していただいた。県から直接指導助言をいただくことができ非常に参考になった。



##### 今後の課題と対応方針

- ・今年度は教育委員会スポーツ振興課が中心になって事業を進めてきたが、将来的には第三者的な地域クラブ活動の運営団体の設置が必要と考える。
- ・部活動地域移行の完全実施となる令和8年度からは、他市町村の生徒が取手市の地域クラブ活動に参加したり、逆に取手市の中学生が他市町村の地域クラブ活動に参加することが予想される。他市町村の関係団体や関係者との連携が必要になってくると思われる。



## 2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保証・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実  
 カ：参加費用負担の支援等  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



### 取組内容

#### ▼取組項目名：エ：面的・広域的な取り組み

#### 取組事項

- ・取手市立中学校の生徒と保護者向けに、部活動地域移行に関する説明文書を作成し、全家庭に配信した。
- ・取手市のホームページに、取手市部活動地域移行推進協議会の会議の様子や、モデル事業の取手軟式野球クラブと藤代剣道クラブの活動の様子を掲載した。
- ・取手市立中学校全6校の生徒、保護者、教職員を対象に、部活動地域移行に関するアンケート調査を行った。

#### 取組の成果

- |   |  |
|---|--|
| <p>○生徒アンケート調査の結果から 回答数：914<br/>         ☆「部活動の地域移行について、考えをお聞かせください。」</p> <p>①大いに進めた方がいいと思う 15%<br/>         ②進めた方がいいと思う 16%<br/>         ③どちらかといえば進めた方がいいと思う 20%<br/> <b>①、②、③の肯定的な考えが51%</b></p> <p>④進めない方がいいと思う 12%<br/>         ⑤わからない 37%</p> | <p>○保護者アンケート調査の結果から 回答数：594<br/>         ☆「部活動の地域移行について、考えをお聞かせください。」</p> <p>①大いに進めた方がいいと思う 15%<br/>         ②進めた方がいいと思う 24%<br/>         ③どちらかといえば進めた方がいいと思う 21%<br/> <b>①、②、③の肯定的な考えが60%</b></p> <p>④進めない方がいいと思う 17%<br/>         ⑤わからない 23%</p> |
| <p>○教職員アンケート調査の結果から 回答数：71<br/>         ☆「部活動の地域移行について、考えをお聞かせください。」</p> <p>①大いに進めた方がいいと思う 46%<br/>         ②進めた方がいいと思う 29%<br/>         ③どちらかといえば進めた方がいいと思う 13%<br/> <b>①、②、③の肯定的な考えが88%</b></p> <p>④進めない方がいいと思う 8%<br/>         ⑤わからない 4%</p>   | <p>◎生徒、保護者、教職員ともに部活動の地域移行に肯定的な意見が多いことがわかった。</p> <p>●進めない方がいいという理由については、「移動や送迎などに時間がかかりそう」「自分の学校以外の指導者や生徒との人間関係が心配」「参加費など、お金がかかりそう」というものが多かった。</p>  |

#### 今後の課題と対応方針

- ・説明文書を配布したり、市のホームページに掲載したことで、少しずつ中学校部活動の地域移行に関する理解は深まってきていると考える。2月には、各中学校の新生生の説明会にスポーツ振興課から出向いて地域移行について説明を行った。今後も機会をとらえて、中学生、保護者、教職員、地域の関係団体への説明を行っていききたい。

## 2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保証・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取り組み

### オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ▼取組項目名：オ：内容の充実

#### 取組事項

- ・令和5年度のモデル事業である軟式野球クラブは、夏休みから取手第一中学校の野球部の生徒も加わって、三校の合同チームとして活動をしている。人数も増え、いい練習ができており、大会でも好成績を収めるようになってきた。
- ・剣道クラブは、総合体育大会や新人大会の中体連の大会にはそれぞれ学校から参加したが、練習試合やローカル大会には「藤代剣道クラブ」として積極的に参加している。

#### 取組の成果

##### 【藤代軟式野球クラブ】

- 7月 県南選抜軟式野球大会取手市・北相馬郡予選に参加、第3位。
- 8月 第46回常総広域中学校対抗球技大会(軟式野球の部)に参加、**優勝**。
- 9月 取手市北相馬郡新人体育大会(軟式野球の部)に参加、**優勝し県南新人大会出場した**。
- 10月 県南中学校新人体育大会(軟式野球の部)に出場。**準優勝し県新人大会出場した**。
- ・通常は、主に土曜日、取手一中か藤代中学校か藤代南中学校のグラウンドで練習をしている。
- ・令和6年度からは、地域クラブ活動として中体連の大会にも参加する予定。

##### 【藤代剣道クラブ】

- 8月 夏季取手市近隣中学生剣道交流大会に参加、**女子優秀賞、男子敢闘賞**。
- 9月 取手市北相馬郡新人体育大会(剣道の部)には学校ごとに参加、**女子2名が個人戦で三位となり県南新人大会出場した**。
- 12月 冬季取手市近隣中学生剣道交流大会に参加、**男女ともに敢闘賞**。
- ・その他の日は、主に土曜日、藤代中学校か藤代南中学校の武道場で稽古をしたり、近隣の中学校と合同稽古や練習試合を行っている。



#### 今後の課題と対応方針

- 令和5年度のモデル事業の軟式野球クラブと剣道クラブはとて面白い活動ができています。令和6年度は、各中学校2つ以上。令和7年度は、各中学校で半数以上の部活動を地域クラブに移行する予定である。今年度の取組を参考に、いい地域クラブ活動を行っていきたい。

## 2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保証・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実  
**カ：参加費用負担の支援等**  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ▼取組項目名：カ：参加費用負担の支援等

##### 取組事項

- 令和5年度のモデル事業への参加生徒からは、会費等は取らなかった。また、指導者の含めたスポーツ安全保険料も取手市が負担した。指導者への報酬も市が負担した。
- 令和7年度までは移行期間であることから、地域クラブとして活動している生徒と部活動として活動している生徒で差がないように、移行期間中は参加費やスポーツ安全保険料は取らない。令和8年度からは、全部の部活動が地域移行になることから、参加費等を徴収する予定である。

##### 取組の成果

- 令和5年度は、モデル事業の参加生徒から会費等は取らず、また、スポーツ安全保険料も取手市が負担したことから、保護者からの質問や苦情等はなかった。
- 指導者への報酬やスポーツ安全保険料も市が負担した。今年度は兼職兼業で、中学校部活動の顧問が指導にあたったので、スムーズに運営ができた。

##### 特に工夫した事項

- モデル事業の軟式野球クラブと剣道クラブが活動を始める際に、クラブごとに保護者会を行い、スポーツ振興課からも参加して主旨説明を行った。保護者会を行ったことで、保護者同士もコミュニケーションを取ることができ、生徒の送迎等、運営にも積極的に協力してくれるようになった。
- モデル事業の指導者への報酬は、教員特殊業務手当（部活動手当、休日4時間で3,600円）よりも多くなるように設定した（時給1,158円+交通費200円）。

##### 今後の課題と対応方針

- 令和8年度からは、全部の部活動の休日の活動が地域に移行し、地域クラブとして活動していくことから、参加する生徒から参加費を徴収することになる。またスポーツ安全保険料も自己負担になる。補助金等を活用し、できるだけ保護者の負担を軽くするようにしていきたい。
- 指導者への謝金も、文部科学省で定める諸謝金基準単価（1時間1,600円）に近づけるようにしなければならない。会費と補助金等による収入と指導者への謝金等の支出、保護者の負担と指導者への報酬のバランスを取りながら、双方にとっていい運営ができるようにしていきたい。

## 2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保証・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実  
カ：参加費用負担の支援等  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ▼取組項目名：キ：学校施設の活用等

##### 取組事項

○活動場所について、令和5年度は、モデル事業として藤代中学校と藤代南中学校の軟式野球部と剣道部が、地域クラブとして休日の活動を行った（夏休みからは、取手第一中学校の軟式野球部も加わった）。そのため活動場所として、軟式野球クラブは、藤代中学校と藤代南中学校と取手第一中学校のグラウンドを順番に使って活動している。剣道クラブは、藤代中学校と藤代南中学校の武道場を交互に使って活動している。

##### 取組の成果

○学校施設を使用しているため、使用料等がかからなかった。用具等についても、普段部活動で使用しているものを使ったため、新たに備品を購入するなどの負担はなかった。  
○通常の練習の際の生徒の移動は、自転車または保護者の送迎であったが、特に問題はなかった。  
○大会等に参加する場合の移動は保護者の送迎であったが、保護者同士で連絡を取り合って、安全に生徒を送迎してくれた。

##### 特に工夫した事項

○事前に活動計画表を、スポーツ振興課と中学校に提出してもらい、中学校の他の部活動の迷惑にならないように配慮した。  
○複数の中学校の生徒が集まっていることから、クラブごとに保護者会を開き、活動中の安全対策や生徒の送迎について説明をした。保護者の理解を得たことで、スムーズな活動ができた。  
○軟式野球クラブは、11月に藤代球場を使って、東京都の駿台学園中学校と県南選抜チームを招待し、交流試合を行った。生徒のモチベーションも高まり、技能の向上が見られた。活動内容によって学校施設以外の活用も考えていきたい。

##### 今後の課題と対応方針

○昨年の夏は記録的な猛暑であった。暑さ対策や安全対策には万全を期さなければならないが、市内の中学校の体育施設も老朽化しているところもあり、市とも協議し施設面の充実を図っていきたい。  
○取手市内には県立高校が5校、私立高校が1校ある。施設的に中学校よりも充実しているところもあり、中学生のよりよい活動環境づくりのために、高校との連携も進めていきたい。

## 2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保証・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実  
 カ：参加費用負担の支援等  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



### 取組内容

#### ▼取組項目名：ク：その他の取組

#### 取組事項

- 小学6年生及びその保護者への広報活動として、2月初旬の市内6中学校の新入生保護者説明会に、スポーツ振興課から担当者が訪問し、部活動地域移行について説明した。
- 同時に、新入生や中学1・2年生にも資料を配付し、今年度の部活動地域移行の取組や来年度のモデル事業の計画等について説明した。

#### 取組の成果

- 中学校入学前に、部活動地域移行について直接小学6年生と保護者に説明したことで、部活動地域移行に関する理解を深め、疑問点や不安な点を解消することができた。
- 教職員の中にも、部活動地域移行について不安に思っている教職員もいることから、一緒に説明を聞いてもらうことで、教職員の理解も深めることができた。

6年生の皆さんへ、保護者の皆様へ



#### 取手市中学校部活動地域移行について

取手市中学生スポーツ・文化クラブ(TACC)  
 Toride Athletics & Cultural Club

6年生の皆さん、今日は新入生の説明会に参加していただきありがとうございます。  
 さて、中学生が将来にわたってスポーツ活動や文化活動に親しむことができるように、中学校の部活動の休日の活動を、地域に移行することになりました。国や茨城県のガイドラインにより、令和8年度からは、中学校の部活動の休日(土曜・日曜・祝日)の活動が、地域クラブ活動に移行することになります。  
 取手市でも、中学校部活動の地域移行が、中学生の皆さんを主役とした当市にあった事業となるように取り組んでいます。市が各団体の方々と協力して「取手市中学生スポーツ・文化クラブ(TACC)」を立ち上げ、活動環境を整備し、地域クラブ活動を通して皆さんの成長と地域のスポーツ活動や文化活動が盛んになるよう取り組んでいます。  
 ※すでに令和5年度は、軟式野球(取手一中・藤代中・藤代南中の合同チーム)と剣道(藤代中・藤代南中の合同チーム)でモデル事業として地域クラブ活動を行っています。

#### 1 中学校部活動を地域に移行する理由とそのメリットは

- 中学校部活動において、いくつかの課題が出てきました。
  - ・全国的に少子化により、部員数が少なくなったりして、練習や試合などの十分な活動を維持することが難しくなっています。
  - ・中学校の先生の業務負担の増加や超過勤務が問題になっています。
  - ・指導者の確保や活動する場所の環境整備など、中学校だけでは部活動を支えきれなくなっています。



- ◎中学校部活動を地域クラブ活動に移行することには、大きなメリットがあります。
  - 市町村や地域のスポーツ協会や文化芸術団体など、いろいろな団体が協力して、中学生のために、より良い活動環境を整備していくことができます。
  - 地域クラブ活動には、市町村や在籍の学校を問わず、参加を希望する生徒なら誰でも参加することができます。
  - 地域クラブ活動でも、総合体育大会や新人体育大会等、各大会に参加することができます(種目よってちがうところもあります)。
  - 地域クラブ活動を通して、中学生が小学生や大人と一緒に活動することで、地域のスポーツ活動や文化芸術活動が盛んになります。

#### 2 中学校部活動と地域クラブ活動のちがいは

- (部活動は)
  - ・活動場所は在籍する中学校です。
  - ・平日の活動と休日(土曜・日曜・祝日)の活動があります。
  - ・指導者は中学校の先生(部活動顧問)や外部指導者の方です。
  - ・部員は同じ中学校の生徒です。
- 団体競技では、部員が足りないや大会に出られないことがあります。
- 生徒がやりたい部活動がその学校になかったり、部員が少なくて思うような活動ができない場合があります。



(地域クラブ活動・取手市中学生スポーツ・文化クラブ「TACC」は)

- ・活動場所は取手市内の中学校や体育施設になります。
- ・活動は休日(土曜・日曜・祝日)のうち、原則、いずれか一日、一回3時間の活動になります(移動や準備の時間はのぞきます。練習試合や大会参加などの場合もどきます)。
- 指導者は、地域クラブ活動の指導員(中学校の先生の兼職兼業での指導を含みます)が指導にあたります。
- 地域クラブは、他市町村の中学生でも参加が可能です(令和8年度から予定)。
- ◎生徒は、自分がやりたいクラブ活動を選んで参加できます(平日の部活動とはちがうクラブに入ることも可能です)。
- ◎地域クラブの指導員から、専門的な指導を受けられます。
- ◎自分の学校以外の生徒とも活動ができ、友だちが増えます。
- 学校の活動ではないため、将来的には参加費が必要になります。

#### 3 令和6年度までの主な取組

- (1) 取手市部活動地域移行推進協議会を開いて、いろいろな意見を聞きながら進めていきます。
- (2) 市立6中学校の生徒の皆さんや先生方、保護者の方を対象に部活動地域移行に関するアンケート調査を行います。
- (3) 令和6年度は、次に示した中学校の部活動が、地域クラブとして休日の活動を行います。

軟式野球(男女)	→ ①取手一中・藤代中・藤代南中 ②永山中・戸頭中
バスケットボール(女子)	→ ①永山中・戸頭中
バレーボール(女子)	→ ①藤代南中(藤代中)
剣道(男女)	→ ①取手二中(永山中) ②藤代中・藤代南中
柔道(男女)	→ ①取手一中・藤代中
空手道(男女)	→ ①取手二中



- ★学校名は活動の中心となる学校を表しています。生徒の皆さんは、平日の各学校での部活動とは、ちがう地域クラブに入ることもできます。
- ★上記以外の学校の部活動については、休日でも学校ごとの部活動として活動します。
- ★戸頭中には軟式野球部はありませんが、戸頭中の生徒が永山中の地域クラブの軟式野球クラブに入ることがあります。同じように、バレーボール部のない藤代中の女子の生徒が藤代南中のバレーボールクラブに、剣道部のない永山中の生徒が取手二中の剣道クラブに入ることができます。
- ★取手市内の中学校に、柔道部は取手一中と藤代中に、空手道部は取手二中にしかありませんので、柔道クラブと空手道クラブは、取手市内の中学生ならばだれでも入ることができます。
- ★永山中と戸頭中の生徒によるバスケットボール(女子)は、総合体育大会終了後に、1・2年生で活動を始めます。

#### 4 令和7年度以降の取組予定

- 令和7年度は、市立6中学校で休日の部活動について、全部活動の半数程度を地域クラブ活動に移行することを目指としています。
- 令和8年4月からは、市立6中学校で休日の部活動について、全部の部活動を地域クラブ活動に移行することを目指としています。

【問い合わせ先】 取手市教育委員会スポーツ振興課 ☎0297(82)7200  
 ★取手市のHPにも、部活動地域移行について掲載しています。取手市のHPを開いていただいて、「部活動地域移行」と検索してみてください。

#### 特に工夫した事項

- 取手市の部活動地域移行についてのチラシを作成し、新入生説明会資料の中に一緒に綴じこんでもらった。中学1・2生については、メールに添付して全家庭に配信してもらった。

#### 今後の課題と対応方針

- 新入生となる小学6年生や中学1・2年生、保護者の理解を深めることができた。今後は、市全体への広報活動にも力を入れていきたい。

## 2. 実証内容と成果

### 参考資料（生徒アンケート結果から自由記述の抜粋）

#### ○生徒アンケート調査の結果から

回答数：914

☆質問「部活動の地域移行について、期待することや、提案したいことがあったら書いてください。」

- ・いろいろな学校の人とやることで、自分のうまさに直結すると思うのでいいと思います。
- ・友達関係が広がり、様々な意見を取り入れて自分自身を成長させてくれそう。
- ・夏休みなどを返上してもいいから、5時間授業にして夏も冬も部活の活動時間が変わらなくなるようにしてほしい。活動時間を増やしてほしいです。
- ・自分が取り組みたいと思ったスポーツに本格的に集中できる。質の高い練習ができる。
- ・学校でも地域でも、活動を自分で選択できるようになったらいいと思います。
- ・活動の種類を増やしてください。
- ・いいコーチがつくことはいいと思います。

生徒の自由記述では、中学生らしい前向きなコメントや活動が広がることを期待する声が多かった。

☆質問「部活動の地域移行について、不安なことや、心配なことがあったら書いてください。」

- ・他の学校の人と上手くやれるか心配です。他の学校の人と仲良くできるか心配。（同様多数）
- ・学校だったら部活のことでもすぐに先生に聞けるけど、地域移行になったらそういうことが難しくなると思うので心配です。（同様あり）
- ・性格が合わない先生だと、部活を続けたくなくなってしまうかもしれないこと。
- ・今まで教えてくれた先生たちとの教え方の違いなどがあって、やりずらくなってしまうかもしれない。先生とコーチの方向性が食い違わないか。
- ・教えてくる先生がどんな人かわからないので心配。（指導者に関する心配が多数）
- ・他の学校の人との人間関係が心配、お金が余計にかかってしまうと親に負担をかけてしまう。
- ・部活をする人が減りそう。
- ・うまくなりたい人と楽しみたい人の差が心配。

こちらの自由記述では、他の学校の生徒との人間関係や自分の学校の先生以外の指導者に対する不安が多かった。

【生徒向けのアンケート調査から自由記述を抜粋】


## 2. 実証内容と成果

### 参考資料（保護者アンケートの結果から自由記述の抜粋）

○保護者アンケート調査の結果から 回答数：594


☆質問「部活動の地域移行について、期待することや、提案したいことがあったら書いてください。」

- ・子どもたちが、その中学校にはない部活動に参加できる。例えば、陸上部がなくても他校の陸上部の活動に参加したりできること。
- ・子どもが、部活動の専門的知識や技術などの指導が受けられるのはありがたいです。（同様多数）
- ・「安全」「安心」が確保されていればOKだと思うので、「安全」「安心」を確保してください。
- ・市で送迎車を出すなど、そういった援助もきちんとしてほしい。
- ・いろいろな経験が子どもの役に立つと思うので賛成です。（同様あり）
- ・小学生のスポーツ少年団の活動や高校生の部活動と比べて、制限されてばかりの中学校部活動に期待できることはありません。取手市は地域移行のために必要なお金を十分かけて、中学校部活動が一刻も早く地域に開かれることを願っています。
- ・勝利至上主義の部活動にならないことを期待します。楽しく活動できることが一番だと思います。部活動への意欲は部内でも子どもによって温度差があつたりしますが、やる気のないように見える子が責められることのないように、と望みます。
- ・共働き家庭で送迎などが難しい家庭への負担なく、また経済格差などに関係なく、子供たちが希望する活動に、地域の中で適切かつ安全な環境で参加できる体制作りを整えていって欲しいです。
- ・現在の活動に不満はありません。先生の負担を減らしながらも、信頼関係を保った活動を継続してほしい。
- ・男子バレーボール部や陸上部を作してほしい。 ・クラブ活動を活性化してください。

 保護者の自由記述では、子どもが専門的な指導を受けられることへの期待と、できるだけ保護者の負担を減らしてほしいという声が多かった。

☆質問「部活動の地域移行について、不安なことや、心配なことがあったら書いてください。」

- ・保護者による会場までの送迎、コーチや指導者や保護者間の関わりなど個人の負担が増えるのではないかと心配です。（同様多数）
- ・大人の責任転換ばかり起きて、部活のレベルが下がりそう。今でも部活の練習時間が少なくて試合には、仕上がらないのに。子供たちより大人を保護する事業にしか見えない。そこで問題が起きた時の相談や、対処の仕方はどういふふうになるか心配です。
- ・指導者の確保が難しいと思いますが、指導者としてある程度の基準を設けて欲しいです（競技経験だけでなく、人格や犯罪歴なども含めて）。（同様あり）
- ・今までなら、学校の部活動で育まれてきた努力することの大切さ、厳しさ、勝利の感動、また挫折などを地域に丸投げするのだなと。先生の負担軽減のために子供が犠牲になるのではないかと。クラブへ通うことは経済的負担にもなるので、そこで経済格差も生まれるのではないかと。部活動内の人間関係のいざこざが生じてしまった時も学校は無関係となってしまうなど、先生と学校への不信感がでないか心配です。
- ・不安はあります。大人の都合ではなく、子どもたちの部活動です。第一に子供たちの思いをしっかりと受け止めてください。

 こちらの自由記述では、指導者に関する不安と参加費や送迎などの負担が増えることを心配する声が多かった。  
【保護者向けのアンケート調査から自由記述を抜粋】

## 2. 実証内容と成果

### 参考資料（教職員アンケートの結果から自由記述の抜粋）

○教職員アンケート調査の結果から 回答数：71

☆質問「部活動の地域移行について、期待することや、提案したいことがあったら書いてください。」

- ・生徒たちが楽しく活動しながら、技能も向上できるように希望します。
- ・誰もが平等に指導し、生徒が専門的な指導を受けられるようになると思う。
- ・教職員の部活動指導の負担軽減と、生徒が部活動指導員による専門的な指導が受けられること。
- ・教員が部活ばかりに熱心になるのではなく、学習指導や生徒指導が充実することを期待します。
- ・教職員や生徒が、地域とスポーツでつながることが期待できる。
- ・教えることに生きがいを感じている先生もいるので、教職という仕事に加えてクラブチームの監督等としても働ける社会環境になることを望みます。
- ・なるべく多くの地域の方にご協力いただき、地域移行がスムーズに進むことを期待します。

☆質問「部活動の地域移行について、不安なことや、心配なことがあったら書いてください。」

- ・指導者が、生徒のマナーや人間的成長を優先しなくなるのではないか。
- ・校内の部活動では見えていた、生徒の人間関係が見えにくくなること。（同様あり）
- ・生徒指導に関することが増えなければいいなと思っています。（同様あり）
- ・教員と部活動指導員の意思疎通や役割分担を明確に行えるかが心配です。（同様多数）
- ・部活内でのトラブルが発生した際、誰がどのように指導するのか。そのトラブルによって生徒の学校生活に不都合が生じた場合、どう対応していくのか。が心配です。
- ・各地区で公平に、種目に偏りなく、生徒や保護者にとって満足のいく形で移行がスムーズに行われるのかどうか。
- ・生徒に金銭的負担が増えること、顧問と部活動指導員で指導に違いが出てしまうこと。
- ・全国的に地域移行の体制が整うまで、大会の運営や引率等を教員がやるのかどうか。
- ・トラブルへの対応、平日と休日で指導者が変わること。

【教職員向けのアンケート調査から自由記述を抜粋】



## 2. 実証内容と成果

### 参考資料（モデル事業の様子を紹介する市HP用の原稿）

#### 2023年9月15日 取手市部活動地域移行モデル事業「藤代軟式野球クラブ」

9月14日（木）・15日（金）、取手市・北相馬郡新人体育大会（軟式野球の部）に参加しました。「藤代軟式野球クラブ」は7月スタートで、中体連には登録していないので、取手一中の生徒も含めた「取手市合同チーム」として参加しました。

1回戦はシードで準決勝戦からの出場でした。初回に4点を取られる苦しい展開でしたが、ねばり強く追いつけ、7回を終わって7-7の同点になり、タイブレークに突入しました。一進一退の攻防でタイブレーク2回の末、8-7で勝ちました。

決勝戦でも初回に3点を取られるスタートでしたが、強気で攻め返し、集中力を発揮して10-3でコールド勝ちし、見事に優勝しました。藤代中、藤代南中、取手一中の合同チームですが、お互いに声を掛け合って、いいチームワークで試合ができていました。優勝したことで取手市・北相馬郡の代表として県南新人大会に出場することになりました。県南新人大会でもがんばります。応援ありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

藤代中学校と藤代南中学校の軟式野球部は、隣の学校ということもあり、以前から一緒に活動していました。その関係で、部活動地域移行にあたり、モデル事業の「藤代軟式野球クラブ」として休日の活動を行うことになりました。「藤代軟式野球クラブ」は地域クラブ活動なので、藤代中学校や藤代南中学校の生徒でなくても、だれでも参加できます。興味のある方は、スポーツ振興課までご連絡ください。



【問い合わせ先】 取手市教育委員会スポーツ振興課 電話0297（82）7200  
※ 火曜日～金曜日 9：00～17：00

【軟式野球クラブHP用原稿】

2023年10月7日

10月7日（土）には、藤代南中学校の武道場で、県南新人大会に向けて戸頭中学校、御所ヶ丘中学校と合同稽古を行いました。みんなで一緒に準備運動と素振りから始まって、基本技の練習、個人戦形式での試合稽古、最後に団体戦形式での試合稽古を行いました。一人一人がとてもよく声が出ていて、技もキレイ動きも良く、気合いの入ったいい稽古ができました。

藤代中学校と藤代南中学校の剣道部は、隣の学校なので以前から一緒に活動しています。部活動地域移行にあたり、モデル事業の「藤代剣道クラブ」として休日の活動を行うことになりました。「藤代剣道クラブ」は地域クラブ活動なので、藤代中学校や藤代南中学校の生徒でなくても、だれでも参加できます。興味のある方は、スポーツ振興課までご連絡ください。



【問い合わせ先】 取手市教育委員会スポーツ振興課 電話0297（82）7200  
※ 火曜日～金曜日 9：00～17：00

【剣道クラブHP用原稿】

## 2. 実証内容と成果

### 参考資料 (活動写真)



【軟式野球クラブ・取手市北相馬郡新人体育大会・優勝】



【軟式野球クラブ・県南新人体育大会・準優勝】



【剣道クラブ・冬季取手市近隣剣道交流大会・敢闘賞】



【剣道クラブ・クリスマス部内戦】

## 2. 実証内容と成果

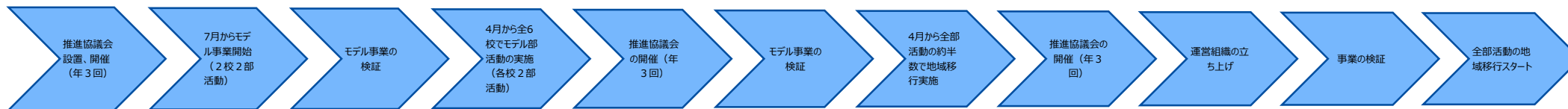
### 部活動地域移行モデル実証事業

令和5年度

令和6年度

令和7年度

令和8年4月



#### ●ステークホルダー

取手市中学校長会、各中学校長  
教育委員会スポーツ振興課

#### ●経過

定期的に市の中学校長会に参加し、部活動地域移行についての説明や情報交換を行った。

#### ●課題

モデル事業を行うにあたっては、各中学校で対象となる部活動の選定やその顧問が兼職兼業での指導ができるかなど、現場の学校長の協力が不可欠である。

#### ●実施内容、工夫した点

中校長会だけでなく、個別に各中学校を訪問し、教頭先生や教務主任の先生も交えて話し合いを行い、令和6年度にモデル事業を行う部活動を決定していた。

#### ○成果

令和6年度は、各中学校2つ以上の部活動が地域クラブとして活動するという目標をたてていたが、6中学校の13の部活が8つの地域クラブとして活動することになった。

#### ●ステークホルダー

取手市立中学校の1・2年生及び保護者  
取手市立中学校の教職員  
教育委員会スポーツ振興課

#### ●経過

令和5年7月に、取手市立中学校の1・2年生及び保護者と取手市立中学校の教職員を対象に、取手市の部活動地域移行についての説明文書を配付した。9月には、部活動地域移行に関するアンケート調査を行った。

#### ●課題

中学生や保護者、教職員について、部活動地域移行についての理解が進んでいないことが課題であった。

#### ●実施内容、工夫した点

説明文書を配布するだけでなく、市のHPにも国や県からの資料や7月から始まったモデル事業の取組等を掲載し、時間をおいてからアンケート調査を実施した。

#### ○成果

アンケート調査を行うことで、中学生や保護者、教職員の中に、部活動地域移行についての理解を深めるとともに、貴重な意見を吸い上げることができた。特に中学生の前向きな意見は非常に参考になった。

#### ●ステークホルダー

取手市立小学校の6年生及び保護者  
教育委員会スポーツ振興課

#### ●経過

令和6年度新中学生となる小学6年生及び保護者を対象に、取手市の部活動地域移行についての説明文書を配付するとともに、2月の各中学校の新入生説明会に参加し、直接保護者に説明をした。

#### ●課題

小学6年生や保護者について、部活動地域移行についての理解が進んでいないことが課題であった。

#### ●実施内容、工夫した点

説明文書を配布するだけでなく、保護者に直接説明をした。市のHPに掲載されている内容についても紹介した。

#### ○成果

保護者に直接説明をすることで、保護者の疑問や不安を解消することができた。取手市は、市（スポーツ振興課）が主体となって事業を進めているということを知ってもらえたことが大きな成果であった。

## 3. 今後の方向性

### 地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

#### ○令和6年度

- (1) 取手市部活動地域移行推進協議会の開催（6月、12月、2月の3回を予定）
- (2) 次の部活動を、地域クラブとして休日の活動を実施（4月～）
  - ・軟式野球（男女） → ①取手一中・藤代中・藤代南中 ②永山中・（戸頭中）
  - ・バスケットボール（女子） → ①永山中・戸頭中
  - ・バレーボール（女子） → ①藤代南中・（藤代中）
  - ・剣道（男女） → ①取手二中・（永山中） ②藤代中・藤代南中
  - ・柔道（男女） → ①取手一中・藤代中
  - ・空手道（男女） → ①取手二中
- (3) 市立6中学校の生徒、保護者、教職員を対象にした部活動地域移行に関するアンケート調査の実施（9月予定）
- (4) 新入生説明会において、保護者を対象に部活動地域移行に関する説明会を実施（2月予定）
- (5) 運営団体・実施主体（取手市中学生スポーツ文化クラブ・T A C C）の設立準備



#### ○令和7年度

- (1) 取手市部活動地域移行推進協議会の開催（6月、12月、2月の3回を予定）
- (2) 市立6中学校の全部活動の半数程度の部活動を、地域クラブとして休日の活動を実施（4月～）
- (3) 市立6中学校の生徒、保護者、教職員を対象にした部活動地域移行に関するアンケート調査の実施（9月予定）
- (4) 新入生説明会において、保護者を対象に部活動地域移行に関する説明会を実施（2月予定）
- (5) 運営団体・実施主体（取手市中学生スポーツ文化クラブ・T A C C）の設立

#### ○令和8年度

- (1) 取手市部活動地域移行推進協議会の開催（6月、12月、2月の3回を予定）
- (2) 運営団体・実施主体（取手市中学生スポーツ文化クラブ・T A C C）による地域クラブ運営の開始（4月～）
- (3) 市立6中学校の全部活動を、地域クラブとして休日の活動を開始（4月～）
- (4) 市立6中学校の生徒、保護者、教職員を対象にした部活動地域移行に関するアンケート調査の実施（9月予定）
- (5) 新入生説明会において、保護者を対象に部活動地域移行に関する説明会を実施（2月予定）